

令和6年度 下水道事業会計決算の概要

札幌市 下水道河川局



1 公営企業会計のお金の流れ

- 公営企業会計では、1年間の経営活動の収支(**収益的収支**)と、将来の経営活動に必要な収支(**資本的収支**)を区分しています。

 **収益的収支**：下水道事業のサービス提供に関するお金の流れ

- ・ 入ってくるお金(収益):下水道使用料収入など
- ・ 出ていくお金(費用):1年間の事業を運営するための経費
(人件費、下水道施設の運転・管理費など)



通常、この収支の中で収益が費用を上回ることが求められます。

 **資本的収支**：下水道施設の建設・改良など効果が複数年に及ぶお金の流れ

- ・ 入ってくるお金(収入):下水管の整備や処理場の改築のための借入金(企業債)、国からの補助金など。
- ・ 出ていくお金(支出):下水道施設の更新、大規模な建設・改良費など。

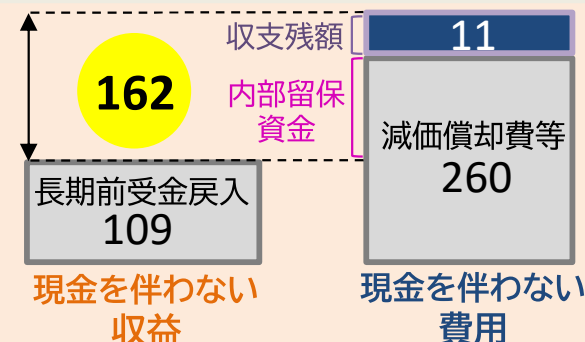


支出が収入を上回って資金不足になることが多く、その差額は資金残や収益的収支で発生した資金で補います。

2 令和6年度決算の概要(収益的収支 ※消費税込)

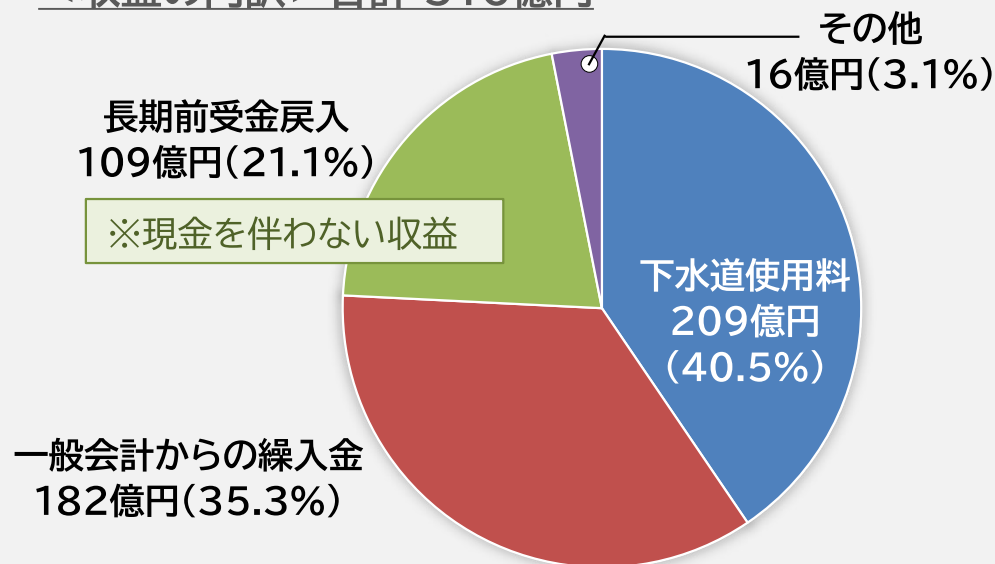
◆ 決算のポイント：

- ・収益的収支の差引額は11億円
(【収益】516億円 - 【費用】505億円)
- ・減価償却費等による内部留保資金と合わせて
162億円の資金が発生しました。



※内部留保資金(現金を伴わない収益と費用の差額151億円)は、資本的収支の資金不足を補填するために使います。

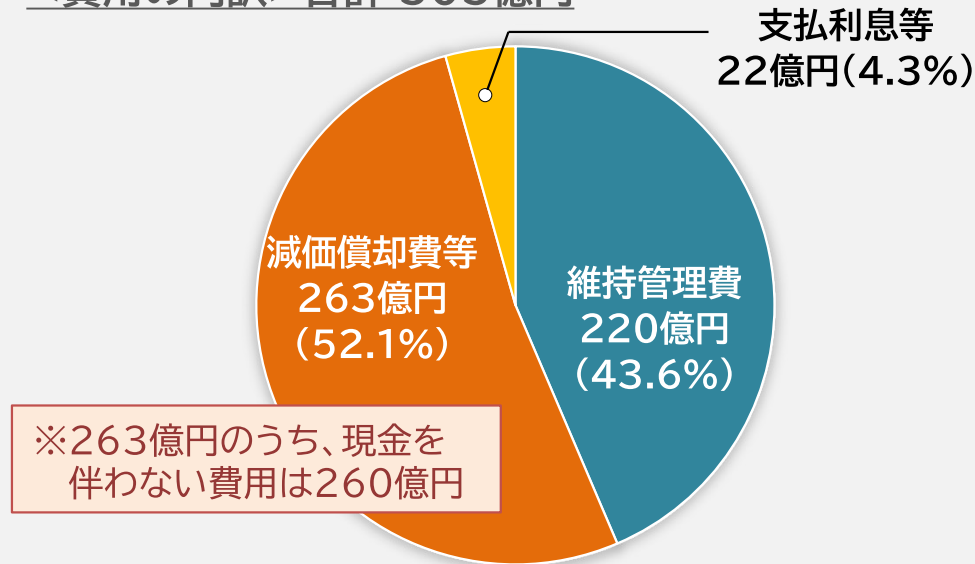
<収益の内訳> 合計 516億円



長期前受金戻入

長期間にわたって使用する資産の取得時に財源とした補助金等を、その資産の使用期間で分割して計上した収入

<費用の内訳> 合計 505億円



維持管理費

人件費、処理場の運転・管理費など日々のサービス提供にかかる費用

減価償却費等

長期間にわたって使用する資産の取得額を、その使用する期間で分割して計上した費用

支払利息等

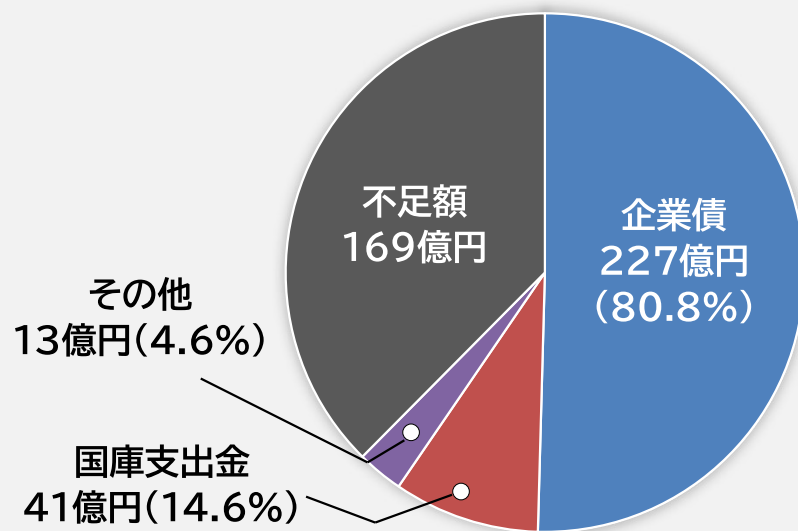
下水道施設の建設・整備等のための借入金に対する利息の支払い費用

2 令和6年度決算の概要(資本的収支 ※消費税込)

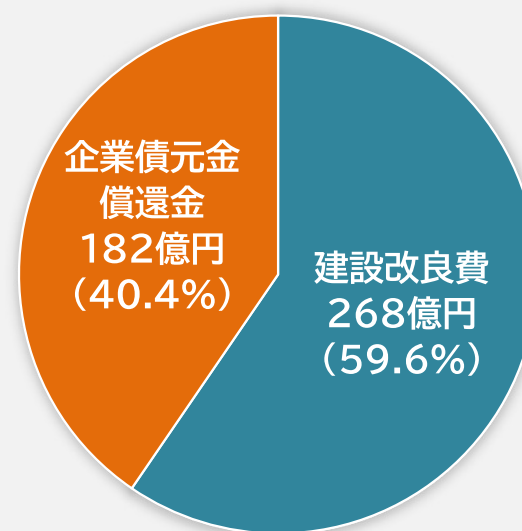
◆ 決算のポイント：

- ・169億円の資金不足（【収入】281億円 - 【支出】450億円）
- ・収益的収支で発生した資金と前年度の資金残で補填しました。

<収入の内訳> 合計 281億円



<支出の内訳> 合計 450億円



不足額169億円は、以下の資金で補填しています。

- ・収益的収支で発生した資金： 162億円
- ・資金残： 7億円（前年度から繰り越された資金の一部）

2 令和6年度決算の概要(令和6年度予算との対比)



収益的収支の好転

予算時の見込みよりも収支が3億円好転

予算時の見込	増減	決算
8億円	+3億円(好転)	<u>11億円</u>

□ 主な変動要因

委託料等で契約差金が生じたことや、電気料金の上昇が落ち着き動力費に不用が生じたことなどにより、維持管理費が減少しました。



資本的収支の好転

予算時の見込みよりも資金不足が3億円縮小

予算時の見込	増減	決算
▲172億円	+3億円(好転)	<u>▲169億円</u>

□ 主な変動要因

請負工事費等で契約差金が生じたほか、翌年度への繰越などにより建設改良費が減少しました。



資金残の好転

収支好転などにより、期末時点の資金残は4億円好転

予算時の見込	増減	決算
52億円	+4億円(好転)	<u>56億円</u>

※消費税抜きの収益的収支の差引額(経営状況が黒字か赤字か)については、損益計算書の2ページ目をご確認ください。

3 令和6年度決算の主要事業

【下水道施設の再構築】 老朽管の改築

- 札幌市の下水道施設は、昭和40年代から50年代に集中的に整備を進めたため、今後、耐用年数(50年)を超える管路が急増します。
- このような状況において、計画的に改築を行うため、管路調査により劣化状態を把握し、適切な改築時期を判断し、老朽化対策を着実に進めています。
- 令和6年度は25.4kmの改築を実施しました。

下水道施設の整備状況

昭和初期に整備した下水管(老朽管)

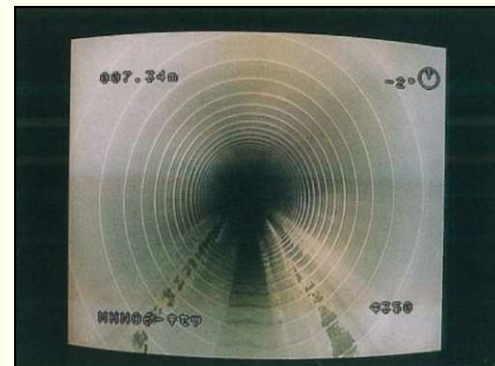


(更生前)



管更生工法による改築

管更生工法による管路の改築



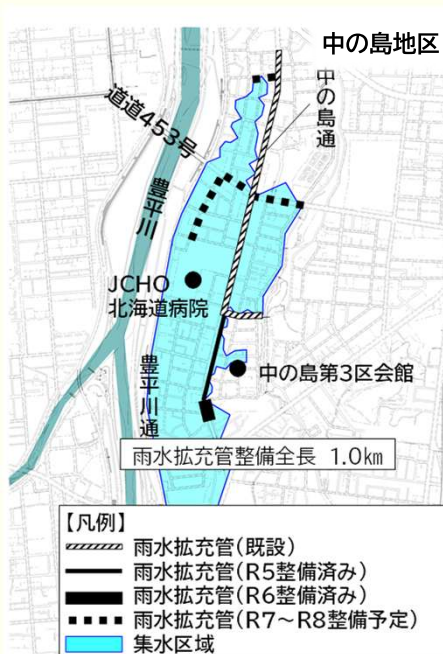
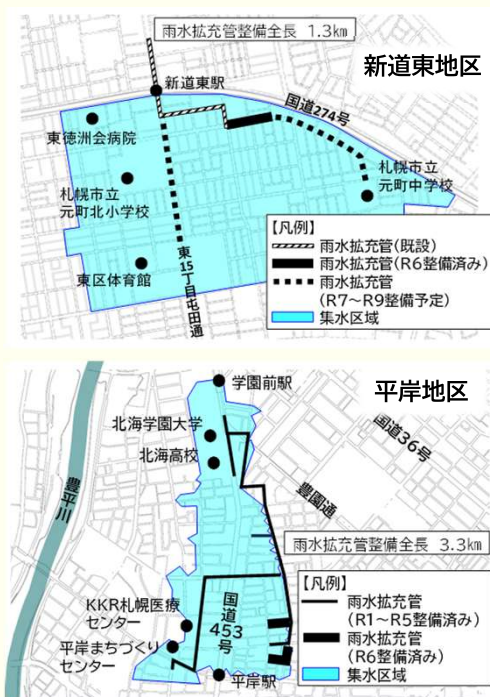
(更生後)

3 令和6年度決算の主要事業

【下水道施設の災害対策(雨水対策)】雨水拡充管の整備

- 札幌市では、10年に一度程度の大雨(1時間雨量35mm)の排除を目標に雨水拡充管の整備を進めています。
- 令和6年度は、国の補助制度を活用し、平岸地区は約0.3km、新道東地区は約0.2km、中の島地区は約0.1kmの雨水拡充管を整備しました。

令和6年度整備箇所図



雨水拡充管イメージ図

